

P2 システムならではの撮影現場とワークフロー スタッフ全員の理解が重要

テレビドラマ（日本テレビ放送網）

「ヒットメーカー 阿久悠物語」

撮影監督：長田勇市氏

03

2008年8月に放送された日本テレビ開局55周年記念番組「ヒットメーカー 阿久悠物語」は、メモリーカード・カメラレコーダー“P2 cam”「AG-HPX555」をメインに、パナソニックのAG-DVXシリーズや、LCDモニターを駆使して制作された。この番組は、5000曲ともいわれる歌を生み出し、2007年8月に他界した作詞家・阿久悠の人生を追いながら、歌謡曲が最も華やかだった時代の知られざる人間模様を描いた実録ドラマで、オーディション番組「スター誕生！」の誕生秘話や、この番組から生まれた花の中三トリオ、ピンク・レディーなどの活躍などを描いている。監督は金子修介氏、撮影監督は長田勇市氏。

メインカメラとしてAG-HPX555×2台を使用し、当時の「スター誕生！」の再現シーンではAG-HVX205Aを含む3カメ体制で撮影（1080/30p）を行っている。都内での撮影だったことから、その日の撮影が終了するとフィルムのネガと同じようにP2カード（32GB×3）を制作部に回し、ハードディスクに取り込みHDテープに変換、SDにコンバートしてAvidでオフライン編集、そのEDLによってオンライン編集を行い、カラコレ後に完パケしている。

撮影監督を務めた長田勇市氏（日本映画撮影監督協会）

○通常の撮影にはAG-HPX555×2台を使用しましたが、「スター誕生！」の中継シーンはAG-HPX555×2台とAG-HVX205A×1台による3カメで撮影しました。当時の「スター誕生！」の中継は、みんなを平等に扱うという意味から、カメラポジションやカット割りは予め全て決まっていたんです。ちょっと高めのセンターにメインカメラ、フロアの両サイドにサブカメラ2台の計3台。日活撮影所のスタジオに当時と同じものをセットで再現し、メインカメラと右サイドにAG-HPX555、左サイドはAG-HVX205Aでアップサイズを狙いました。AG-HPX555×2台とAG-HVX205Aは感度設定がほとんど同じなので、カメラの違いは編集してみてもまずわ



撮影風景

かりません。また、AG-HPX555 を使用したことで、ステディカムが多用でき、フォクシークレーンを使用した俯瞰撮影なども可能となりました。

○フィルムやテープと違う点は、立ち上がりまでの時間ロスがない。監督も理解しているので、映っているもの全てが使えるようにカチンコも叩きませんでした。また、サムネイル表示ができるので、NG の場合は素早くカットすることで、編集などの仕上げも楽になります。撮影に臨む際には、色調整やバレ消しなども含めた編集作業を見据えたワークフローを常に考えています。逆に言えば、ポストプロダクションやカラーコレクションまで責任を持たなければ、自分のイメージに近づけることはできません。

○ネットシネマなどではこれまで、P2 カードの容量の問題から 720/24p ネイティブで撮影するなどデータを軽くする工夫が必要でしたが、64GB カードの登場によってそれも不要となり、1080 のフル HD を撮ることができる。数年来、大きなハードルとなっていたポストプロダクションの P2 システム導入の遅れも、ここにきて改善されつつあるので、データ納品ができるようになればもっと楽で安価かつクオリティも高くできるのではないかと考えています。

○これまで、P2 によって全体のワークフローが把握できる作品を中心に仕事をしてきましたが、その中で自分の手足のようにカメラを動かせるシステムを構築してきました。P2 システムによる表現やワークフローは、フィルムでもテープでもない新しいもの。このシステムを上手く活用し、作品を実現化するためには、カメラマンだけでなく、制作・監督・照明・美術など全てのスタッフが「今までとは違う方法」ということを、キチンと理解していく必要があると思います。

